

図書館 コーナー



「蝦蟇の油」

(黒澤明著 岩波書店)

著者が「自伝のようなもの」(副題)と称すこの本は、黒澤明の幼児期から「羅生門」製作までの半生記である。監督としての処女作「姿三四郎」から「羅生門」までの11作品について作者自身の回想を聞くことができる。そして、そこには荒々しい中にも繊細さがひそむ黒澤映画の作法が鮮明に浮かび上がっている。

〈一般書〉

- ◇漂雲 (山木義徳著) ◇ヒトの足 (水野祥太郎著)
- ◇ミュンヘン物語 (小松伸六著) ◇三酔人巴里問答 (藤村倍著)
- ◇太郎冠者を生きる (野村万作著)
- ◇箱根の坂全3巻 (司馬遼太郎著)
- ◇菊慈童 (円地文子著) ◇卜子 (遠藤誉著)
- ◇奇術師誕生 (丸川賀世子著) ◇愛のごとく上・下 (渡辺淳一著)
- ◇タイトル・マッチ (岡嶋二人著)
- ◇米を追う (中西博之著) ◇さて、これからどうする 高齢化社会と人間 (専修大学編)
- ◇あなたの「死にかい」は何ですか? (草柳大蔵著)
- ◇方舟 (ミゲル・トルガ著) ◇ギネスブック・オブ・オリンピック (スタン・グリーンバーグ著) ほか

〈児童書〉

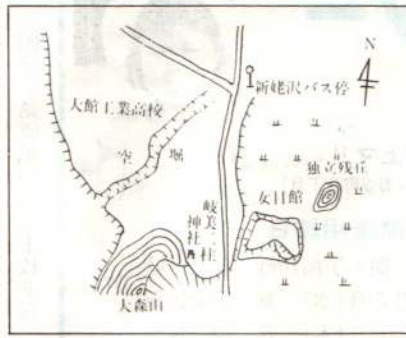
- ◇旺文社ジュニア・スポーツ入門シリーズ全5巻 (旺文社刊)
- ◇秋田県子どもむかし話第1集 (秋田県国語教育研究会他編)
- ◇いほんむかしばなし全10巻 (フレーベル館刊) ほか

茶道といえは「抹茶」を連想しますが、婦人会館では「煎茶」のサークルがあります。

煎茶道は、江戸時代に中国から日本に伝わってきたもので、玉露や煎茶、番茶などを急須で煎じ、おいしいお茶を味わうものです。

同サークルは、婦人会館の煎茶教室を終えた人たちが集まって会をつくりました。会員は現在十八人、毎週月曜日午前十時から日本礼道小笠原流の伊藤ヒサさんを講師に「煎茶の心」を学んでいます。

おいしいお茶を出すためには、お茶の葉の量と湯の量、温度、注ぐタイミングなど難しいことがいろいろありますが、合い間にはお菓子を食べながら世間話や子供のことを話したりしてお茶を楽しんでいます。



「長崎氏日記」に「永正十七年七月、(浅利兵部大輔頼公)御舍弟浅利九兵衛定頼殿、花岡城代となる、知行七百七十石」とあり、慶長二年「浅利頼平領内村数覚」に「花岡村 田島 家廿余 我等屋しき廻」とある。浅利定頼は天正二年に西の山を越えた山田村で秋田氏と戦い討死。以後、治郎吉が跡を継いだ。

神山台地の南東端に突出した小台地の基部に空堀を設けて郭を造り出しているのが、地元で女目館



▲左・独立残丘、右・女目館(北側から撮影)

大館の歴史散歩

⑤

花岡城と女目館

花岡城の主郭部は、県立大館工業高校が建設され旧態をとどめていない。わずかに主郭部の南側に配された空堀に往時を忍ぶだけである。空堀は幅がおよそ三十メートル、神山台地の西縁から東へ三百メートル

ど掘り込み、ほぼ中央部でカギ型に屈折する。神山台地自体が周辺低地帯に浮かぶ独立丘陵で、北東端に諏訪神社、南端の大森山北麓に岐美二柱神社が座し、大森山からは大館盆地北部地域を一望できる。

とか茶臼館と呼ぶ、定頼が愛妾を住ませたという口伝のある小郭である。北辺七十五メートル、南辺百メートル、東辺六十五メートル、西辺五十メートルの不整形台形プランで、南辺中央部がややくぼむ「B」字型である。この小郭の東北三十メートルほど離れて、六十メートル×三十五メートルほどの岩盤の独立残丘があり、この小郭、残丘も含めて、神山台地全体が花岡城を形成していたものと考えられる。

(市史編さん室)

市民の声

～ごみは決められた日に～

古川町の一市民です。当町内のごみ収集日は8月から変更になりました。そこで、町内会の皆さんと話し合いをして収集日を守ることにしましたが、他町内の方が、収集日でないのに自動車や自転車で当町内一時預かり所にごみを持ちこんで困っています。

私たちのごみ一時預かり所は町内会で場所を決め、清掃、管理しています。ごみは決められた日に自分たちの町内の一時預かり所に出すようにしてもらいたいと思います。

〈環境衛生課から〉

ごみ一時預かり所は、町内で話し合って決めていただき、清掃、管理は各町内の責任でもってやっていただくことにしていますので、他の町内の一時預かり所には絶対に出さないでください。

われら サークル仲間

№5

煎茶サークル

「今年のように暑い夏は、心静かにしてお茶を煎じ、また心をこめたお茶をいただくと、心が和み、暑さなんか忘れてしまいます」と会員の皆さんは話します。

同会では会員を募集しています。入会を希望される方は、婦人会館(49-7028)か、同会の代表齋藤恵子さん(42-3445)へご連絡ください。会費は月千五百円です。なお毎年十一月に行われている婦人会館まつりにいくと同会のおいしい煎茶を賞味できます。